

(1) 行政視察の目的

邑南町は豊かな自然環境と地域文化や伝統を次世代の子供たちに引き継ぐため「邑南町まちづくり基本条例」を制定して町民と一緒に共同の町づくりに取り組んでいる。

人口減少・少子高齢化に対する行政の取り組みについて

(2) 行政視察先（邑南町）の概要

邑南町は平成16年10月1日、1町2村が合併した。合併時は人口13,455人で5,251世帯が、現在は10,096人4,752世帯と減少している。高齢化率は45.2%と高い、少子高齢化が進行して、定住対策・少子化対策に取り組が急務となっている。

邑南町では、人口の減少から町の維持の危機から、攻めと守りのプロジェクトを結成、2つの事業を主な柱として、移住・定住施策に取り組んでいる。

(3) 行政の活動

* 攻めの『A級グルメ構想』

「A級グルメのまち」・（永久グルメの町）

食と農を基本にしたまちづくりを提唱して、邑南町の優れた食材や生産者の誇りを込めたネーミングで町全体をブランド化し、認知度やイメージの向上に努めている。

* 邑南町では、以前では豊富な食材を都会に売り込むことに力を注いでいたが、少ない生産量では対応ができない現実があり、この経験から「A級グルメ構想」を提案、レストランの建物を町が用意し、料理人を呼ぶことで、都会から地方へ素晴らしい美味しい食を求めて来

てもらおうという欧州スタイルを実現させている。

今では本格イタリアンや懐石料理などの飲食店の数が増え、現在では、33店舗増え町内外を問わず多くの方が町のグルメに舌鼓をうって、年間90万人を超える食通が訪れるようです。町の特産品の見直しと再確認が必要で、一次産業・二次産業・三次産業の連携を産・学・官・民の連携した地域づくり・人づくりが町の文化・観光に利用できればと思います。

*守りの『日本一の子育て村構想』で更なる定住促進

平成23年度からこども基本条例を制定して、思い切った支援を行っている。一つが子育て家庭の誘致で、子育て世代の経済的負担の軽減対策として、「第二子以降の保育料の完全無料化」や『中学校卒業までの医療費の無料化』を行うこととした。その他一般不妊治療費の助成、子育て支援手当の充実、放課後児童クラブ費減免制度、医師・医療従事者奨学金制度、農林業後継者育成基金の創設などの制度を拡充して子育ての支援を進めている。

まちづくりは、産・学・官・民の連携した施策が必要であり、まちのリーダーである行政職員が元気（やる気）にならないと、町（市）の活性化は成り立たないと思います。

訪問先 広島県北広島町 北広島町まちづくりセンター

令和4年7月13日 9時30分～

(1) 視察の目的

特産品の販売と観光振興を投資手地域をPRする一般社団法人『北広島町まちづくり 会社はなえーる』を設立その活動内容を視察

(2) 活動内容

町が五月上旬に設立し、町から出向して二名が勤務している、現在、町内さんのリンゴを使った洋菓子の開発や、地域の農産物を使ったおせ

ち料理づくりなどを町内の事業者と検討している。

町はふるさと納税の業務を、順次はなエールへ移行させ、開発した商品などを返礼品にする予定。今年目標額は、一億円として商品開発に努めている。アドバイザーとして、邑南町職員時代に食をとうした町おこしを手掛けた寺本英仁氏に依頼した。寺本さんは現在東京でまちづくり拠点運営会社の取締役として活躍している。町長は、これをきっかけに、町を活性化し、利益を町のために還元できる組織にしたいと期待を寄せている。

訪問先 島根県邑南町 一般社団法人地域商社ビレッジプライド邑南
令和4年7月14日 9時～

訪問の目的

地域商社として地域の資源を活用し、地域の人たちが地域で雇用される仕組みを事業化している。

活動内容

A級グルメの理念を共有する5自治体とともに、食に関わる人材の募集、育成、情報発信、広報活動、研究会、イベント等を行い、地域の新たな価値の創出に繋げていきます。

私たちが取り組む高校魅力化事業の内容

私たちは、矢上高校の持続可能な発展、持続可能な「人づくり」のため、矢上高校や邑南町と協力して、「入学支援／教学支援／進路支援／地域と学校の体制づくり」に取り組めます。

子供たちに伝える「邑南町の食文化」をコンセプトに食文化の発展と継承を目指しています。

A級グルメの発信拠点であり、耕すシェフの研修施設でもある香木の森公園にある「里山のからだにやさしい邑南食材レストラン香夢里」で、地元で生産された豊かな食材を使って、素材を活かしたメニューを提供しています。

新しい返礼品の開発

これまで町が首都圏の企業に委託していた業務を「ピレッジプライド邑南」が受託することで、邑南町を応援する納税者の寄附が町内で循環、ふるさと納税の効果が地域全体に及び、新たな町づくりと雇用創出にもつながっています。

今回の、邑南町の視察を終えて、10,096人の町が今後、まちを維持することの大変さと困難な状況を打破していく難しさを痛感しました。
町の（A級グルメ構想）（日本一の子育て村構想）等様々な施策を行っていますが、今後進んでいく少子化・高齢化をどのように乗り越えていけるか、行政マンの手腕にかかっていると思いました